

交通事故防止対策優良事業場表彰を受賞して

渋谷駅街区土地区画整理事業に伴う渋谷駅東
基盤整備工事（第1工区）

東急・清水・鹿島建設共同企業体
渋谷駅東口基盤整備工事事務所
所長 吉村幸丞

1. はじめに

この度は、社団法人 日本建設業連合会安全対策本部 公衆災害対策委員会より、栄誉ある交通事故防止対策優良事業場委員長表彰を賜り、誠にありがとうございました。作業所職員をはじめ、協力業者・現場作業員ならびに関係者一同身に余る光栄に感謝しております。これも、関係者皆様方のご支援・ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。



図-1 工事場所

2. 工事概要および周辺環境

本工事は、渋谷駅中心地区基盤整備における駅街区東口の再開発で、駅施設・駅前広場・道路・歩行者ネットワーク・河川・下水道・防災・環境に関わる整備を行うものです。(図-2 参照)。渋谷駅の鉄道施設、バスターミナル等の公共交通機能を保持しながらその直下に洪水対策のため4,000m³収容の雨水貯留槽の構築、東京メトロ半蔵門線、副都心線、東急田園都市線、東横線、JR山の手線を地下で直結させる約2,500m²の地下広場の構築、幅10m深さ5mの渋谷川の移設を主要工種として、附帯する施設、出入り

口等の移設、更新を行います。平成23年2月に着手し、東京オリンピック・パラリンピックまでに東口基盤整備の概成を目指して工事を進めております。工事にあたり作業箇所常設作業帯を設けられず、杭打や掘削など日々交通規制を行いバス、電車終了後の時間制限がある中、歩行者の真横、また歩行者を止めてダンプ等を通させるという状況で工事を進めなければなりません。夜間でも歩行者が絶えない渋谷の街では常に危険との隣合わせとなっております。そこで地域住民や商店会との連携、わかりやすいサインなどで事前周知を行い、交通安全対策に積極的に取り組みました。

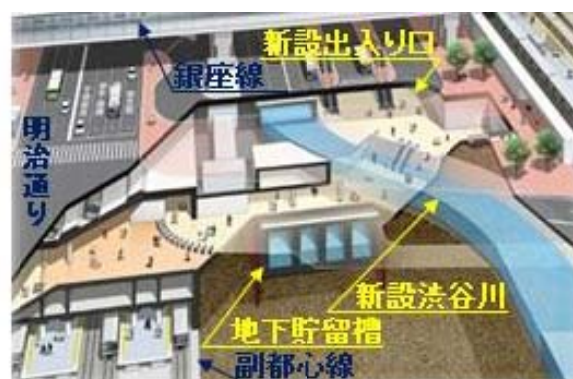


図-2 本工事イメージ

3. 交通事故防止対策

(1) 地域住民への配慮

平成22年度の工事着手時に説明会を実施、月1回の街づくり協議会への参加、地元、発注者、請負者で構成する三者連絡会での意見交換など要望をいち早くキャッチ対応できるように対話を行っています。横断歩道の切回しなど工事エリア内を通路が横断するため誘導員(写真-1)を配置して『わかりやすい工事・安全に』をモットーに工事を進めています。



写真-1 仮設横断歩道誘導状況

(2) 関係各所との事前協議の実施

渋谷駅周辺では、再開発に絡み発注者が異なる多くの工事が行われています。その調整を全体の先導役として日々当JV会議室で行っており夜間の作業帯や車両の導線、台数などを調整して交通災害防止に努めています。

○エリア調整会議（毎月）

区画整理事務所、東急電鉄、JR東日本、メトロ、国土交通省、施工10JVにより構成し、今後1ヶ月の現場状況平面図を作成し、工事内容の把握、作業調整を行っています。

○警視庁道路調整会議（毎月）

警視庁交通部交通規制課、渋谷警察署交通課、施工10JVにより構成し、エリア調整会議の結果を基に、明治通り、国道246、区画整理エリアの日毎の全体作業帯図（図-3）を作成し、調整を行っています。

○周辺工事調整会議（毎週）

施工10JVにより構成し、工事内容、交通規制、資機材搬入の確認を行い、変更があれば渋谷警察署に報告して工事を行っています。

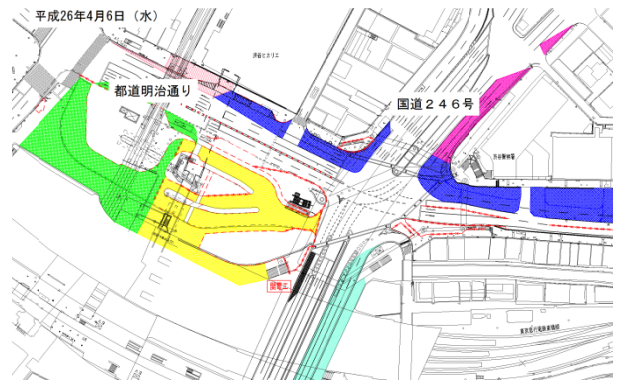
(3) ダンプカーの安全管理

○運搬ルート管理

現場出入口から幹線道路、土捨場までの運搬ルートを設定し、ハザードを確認、ハザードマップ（図-4）を作成して運転手に周知し、安全運転の向上に役立てました。

○運行管理記録

タコメーター、定期点検、点呼時のアルコールチェック（写真-2）を実施し記録、必要に応じて運転手への指導を行っている。



凡例

	二期工事(大成・東急・大和小田急JV)
	基盤整備一工区(東急・清水・鹿島JV)
	基盤整備二工区(大成・鉄建JV)
	駅解体(大成・鉄建JV)
	駅解体(東急・大成・鉄建JV)
	国道出入口工事(東急建設)
	銀座線東口工区(東急・清水・鹿島JV)
	銀座線金王工区(東急・大成JV)
	東電工事(大成・東急・大和小田急JV)
	道玄坂一丁目(清水建設)
	その他

図-3 道路調整作業帯図

運搬経路ハザードマップ



図-4 運搬経路ハザードマップ



写真-2 アルコールチェック状況

○ドライブレコーダー

全車両にドライブレコーダー（写真－３）を装備し、実際の走行映像（写真－４）を用いて運転手安全教育に活用し、急な右左折や信号無視など交通違反がないか確認し、交通事故防止を図っています。



写真－３ ドライブレコーダー



写真－４ 実際の走行映像

○過積載防止対策

標準積み込み荷姿写真を積み込み機械に掲示し、積み込み回数、自重計による計測とあわせて管理しています。土捨場で行う計量結果を無線にて現場にフィードバックし、土質の変化等による積み込み調整が必要な場合にはすぐに対応する体制となっています。



写真－５ 回転灯による注意喚起

○緊急時連絡体制

緊急時の連絡先をカードにして車両の運転席前面に設置し、緊急時には速やかに連絡するように指導しています。

○安全教育の実施

交通安全運動の期間前等、警視庁より頂いたリーフレット等により教育を実施しました。

（４）重機と作業員の接触防止対策

○重機に回転灯を設置

地下掘削では中間杭など死角が多いため、路下で使用する全ての掘削機械に回転灯(写真－５)を取り付け、回転灯が点灯している重機は稼働中であることを周囲に認識させ、作業半径内に立ち入らないこととしています。

○レーザーポインターの使用

重機オペレータとの合図はグーパー運動を推進していますが、中間杭や段掘りしている箇所も多く、近づかないとオペレータが認識してくれないことがあります。また重機の前面に行けな



写真－６ レーザーポインター

いこともあり、稼働中の重機に近づくことで起こる挟まれや激突災害を防止するため、なるべく遠くから合図を送るようレーザーポインター（写真－６）を採用しました。関係する作業員に携帯させ、稼働中の重機のバケットに照射し、オペレータが気がついたら重機を止めるというように運転手との合図に使用しています。



写真－7 自発光式トラチョッキ

○自発光式トラチョッキの着用
稼動する重機付近で作業する作業員は自発光式トラチョッキ（写真－7）を着用し、重機運転手からの視認性を向上させている。

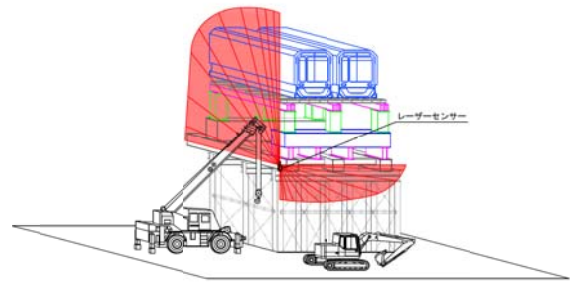
（5）営業線近接、第三者対策

○銀座線近接対策

銀座線近接や直下での作業が多いが、直接的な防護ができないため、監視員の配置とレーザーセンサー（図－5）を用いた警報システムにより、クレーン作業時等の接触事故防止を図っています。

○第三者の安全対策

歩行者の安全対策として、カラーコーンとコーンバーの設置のほか、日々の作業エリアにあわせてシートフェンスの設置撤去を行い、歩行者通路を明確にして第三者の安全を確保している。



図－5 レーザーセンサーを用いた警報システム



写真－8 フェンスによる通路の明確化

4. おわりに

今回、私共が受賞できたのも日本建設業連合会の皆様、東京急行電鉄様をはじめ関係する方々のご支援・ご指導があつてのことです。私共は、この栄誉ある賞をいただいた感激を忘れず更なる安全管理に努め、無事故で工事を完成させる決意であります。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。

〔 2014年7月17日 優良事業場表彰式
公衆災害対策委員会 委員長表彰現場 〕